

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.55
警報レベルの
7倍のPM2.5

重い空気が漂う作業場の中。しばらくの沈黙が続く。

愛煙家の小川がぼそっと言った。

「こんな事も書いていますよ。タバコに含まれるPM2.5は中国からの排煙が主な原因になっている越境汚染の3倍の濃度…?」

「どういうこと?」玉木が尋ねる。

「環境省が定めるPM2.5に関わる環境基準として人の健康を保護するうえで維持することが望ましいPM2.5の濃度は1年平均で $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下。越境汚染が問題になっているPM2.5の濃度は $70\mu\text{g}/\text{m}^3$ だったと。」

「何ちゅう事をしてくれるや!中国は」とにかく曲がったことが嫌いな芳川が反応した。小川は芳川の声が聞こえてないかのように続ける。

「でも、喫煙ルームの中のPM2.5の濃度は $250\mu\text{g}/\text{m}^3$ 。」

「……………」

「あほやな…わし等、バカ殿や!」古川がボソッとつぶやいた。

「えっ?」玉木が振り返った。

「PM2.5警報が出た、視界が霞む、えらいこっちゃ言うて喫茶店に避難して、時間つぶしにタバコを吸う。 $70\mu\text{g}/\text{m}^3$ のPM2.5から逃げて、 $250\mu\text{g}/\text{m}^3$ のPM2.5の中で嬉しそうにタバコをふかして、中国何してくれるんぞと息巻いている。アホや。あまりに無知すぎた。まるで吉本新喜劇や。」古川の横顔が力なく冷笑しているのが皆に読み取れた。

「止めた。」古川がぼつんと言った。

「えっ?」皆の視線が一斉に古川に注がれる。

「俺、止めたわ。タバコ。」

無言の時間が永遠に続く。

凍ったガラスを恐る恐る割るように山下が口を挟んだ。

「玉木さん。本当に止められるんですか?ニコチン依存症はヘロインやコカインより依存度の強い依存症なんですよ。依存症になった人で止めることの難しさはコカインやヘロインと同じなんですよ。…本当に止められるんですか?」

「き・禁煙外来があるやろ。依存症の人を治してくれるらしいで。」

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一